

《観察会》 きのご観察会 8/28(日) 雨天のため中止

8月28日(日) 胎内平新潟県青少年の森・他を会場に、「きのご観察会」を計画されていましたが、雨天のためやむなく中止となってしまいました。そこで、8月22日(月)に下見会を実施しましたので概要をお伝えします。下見会では、昨年と異なり、梅雨、夏場の天候からきたものではないかと思われ、きのごの種類や数が少ない状況でした。次年度以降の開催を期待したいと思います。

《観察会》 鮎谷(かじか谷)集落自然観察会(関川村) 10/16(日)

10月16日(日)に、川又鮎谷区長さんの案内で、鮎谷集落センターから瑞泉寺の自然観察、滝神社の説明、農道(段丘面)、集落センターまで集落一廻りを、児童を含めた総勢26名の参加で行われました。昨年は、雨天のため中止となっていました、今回は清々しい中での自然観察となりました。

瑞泉寺と滝神社の美味しい湧水を戴きながら農道(段丘面)の草花や樹木観察ができました。

10月6日(木)の下見会では、211種の植物が確認され、中にはこれまでに観察したことのない草花や樹木が含まれていました。

又、コース途中で、断層の説明もあり地球の生立ちにも触れることができました。



平坦地が多いコースで、安全のため誰もが楽しめるものであり、家族連れの散策を推奨致します

(下見時の植物リスト…P3参照)

【参加者の声】

関川小 3年 斎藤さん

しらなかったことをしれてたのしかったです。またつぎのもいきたいとおもいました。

そのお母様

お天気も良く、ゆっくりと歩いていると日頃の疲れが抜けて行きました。何気なく目にしている植物の名前を教えて頂き、その由来について聞くことができとても勉強になりました。午後から別の用事があり、途中までの参加だったことが残念に思えました。区長さんからお話を聞いたこともとても良かったです。自然の中でのびのびと過ごせるこの会の活動を、私はとてもありがたい気に入っています。子供がいてもおおらかに受け入れて戴けることもとても嬉しいです。

今後の行事についても是非宜しく願い致します。

《観覧会》 虚空蔵グリーンパーク自然観覧会(朝日地区) 11/13(日)

自然の豊かさを満喫

本間 さん(山北)



晩秋近くとなった11月13日に行われた、「虚空蔵グリーンパーク自然観覧会」に初めて参加させていただきました、感想を求められて今、言いたいこと、それは「自然の豊かさを実感できた」これに尽きます。

標高466メートルの虚空蔵山ですが、集落の近くにたくさんのブナの木々が生えていることを初めて知りました。ブナは「天然のダム湖」とも言われ、その保水能力によって水源の確保や土砂災害の防止に役立っていることはよく知られています。また、木の中には熊の爪痕も確認することができるなど前者の意味だけでなく動物や鳥にとっては食糧の宝庫にもなっていることがよくわかりました。

また、ブナの木のほかにも、コシアブラやカエデなどの木々、それにコシノカンアオイやショウジョウバカマなどの植物もたくさん自生していることに驚きました。

このような自然の宝物を先代の人達は上手に使い、そして守り続け、今日も登山道の整備や補修、そして休憩施設や看板などの冬囲いをしていただいている地元の方々の努力があってこそ観覧会も楽しめるのだと思い、心から感謝しつつ帰路につきました。(下見時(10/31)の植物リスト…P4参照)

《高坪山自然に親しむ会・高坪山周辺の自然調査》

2022.9.14(第11回)～2022.11.09(第15回) までの内容

調査日	散策コース	調査人数	調査結果	備考
9/14	標本整理	7名	—	
9/28	ラベンダー駐車場…堤の廻り少し…水辺 …体育館脇…ラベンダー駐車場	9名	127種	
10/12	ラベンダー駐車場…登山口駐車場への 道の途中まで…ラベンダー駐車場	10名	138種	
10/26	ラベンダー駐車場…堤の廻り少し…水辺 …体育館脇…ラベンダー駐車場	12名	171種	
11/9	ラベンダー駐車場…展望台…水辺方面 途中まで…ラベンダー駐車場	8名	74種	

※;高坪山周辺の自然調査結果の植物リストについては、紙面の都合上割愛。

《荒川みらいファンド助成事業①》

2022.11.01～2022.11.04 高坪山の自然紹介

(文化祭展示 主催:荒川地区公民館)

残念ながら、8月の水害の関係で中止となりました。次年度に向け再計画中。

《5頁に続く》

鮎谷観察会植物調査

日時 2022年10月6日 ... 下見

備考の 写 は写真あり。

場所 鮎谷集落センター～瑞泉寺～滝神社～農道～鮎谷集落センター

参加者:横山、富樫、梅田、河内、近、鎌田、工藤、安達、中村

合計 9名

NO	和名	科名	備考	NO	和名	科名	備考	NO	和名	科名	備考
1	アオミズ	イラクサ		72	ケイヌビエ	イネ		143	ノコンギク	キク	写
2	アカソ	イラクサ		73	ゲンノショウコ	フウロソウ		144	ノブドウ	ブドウ	
3	アカネ	アカネ	写	74	コアカソ	イラクサ		145	ミノフスマ	ナデシコ	
4	アカマツ	マツ		75	コアザガヤツリ	カヤツリグサ		146	ハイイヌガヤ	イヌガヤ	
5	アカメガシワ	トウダイクサ		76	コウゾリナ	キク		147	ハイゴケ	ハイゴケ	
6	アキノウナギツカミ	タデ	写	77	コウライテンナンショウ	サトイモ		148	ハキダメギク	キク	
7	アキノエノログサ	イネ		78	コゴメガヤツリ	カヤツリグサ		149	ハコベ	ナデシコ	
8	アキノキリンソウ	キク		79	コシアブラ	ウコギ		150	ハシカグサ	アカネ	写
9	アキノノゲシ	キク		80	コナスビ	サクランソウ		151	ハナタデ(別名 ヤブタデ)	タデ	写
10	アシボソ	イネ		81	コニシキソウ	トウダイクサ		152	ハリガネウラボ	ヒメシダ	
11	アゼトウガラシ	アゼナ	写	82	コバギボウシ	キジカクシ		153	ハリギリ	ウコギ	
12	アゼナ	アゼナ		83	コブナグサ	イネ		154	ハルジオン	キク	写
13	アブラガヤ	カヤツリグサ	写	84	コボタツル	キンポウゲ		155	ヒカゲイノコツチ	ヒユ	
14	アマチャヅル	ウリ	写	85	コミカンソウ	コミカンソウ	写	156	ヒガンバナ	ヒガンバナ	
15	アメリカセンダングサ	キク		86	コムヒシバ	イネ	写	157	ヒナタイノコツチ	ヒユ	
16	アレチマツヨイグサ	アカバナ		87	コルチカム(別名 イヌサフラン)	イヌサフラン		158	ヒメアオキ	ガリア	
17	イガホオズキ	ナス	写	88	サカゲイノデ	オシダ		159	ヒメキンミズヒキ	バラ	
18	イシミカド	タデ	写	89	サクラタデ	タデ		160	ヒメクグ	カヤツリグサ	
19	イヌガンソク	イワテンダ	写	90	ザクロソウ	ザクロソウ		161	ヒメコウソ	クワ	
20	イヌタデ	タデ		91	ササクサ	イネ		162	ヒメジソ	シソ	写
21	イストウバナ	シソ		92	サルトリイバラ	サルトリイバラ		163	ヒメシダ	ヒメシダ	
22	イヌビエ	イネ		93	サワヒヨドリ	キク		164	ヒメジョオン	キク	
23	イヌワラビ	イワテンダ		94	サンショウ	ミカン		165	ヒメスミレ	スミレ	
24	イワガラミ	アジサイ		95	シシガシラ	シシガシラ		166	ヒメムカシヨモギ	キク	
25	ウド	ウコギ		96	ジシバリ	キク		167	ヒヨドリバナ	キク	写
26	ウマノミツバ	セリ		97	ジュウモンジシダ	オシダ		168	フキ	キク	
27	ウリノキ	ミズキ		98	シロツメクサ	マメ		169	フジ	マメ	
28	ウワハミソウ	イラクサ		99	シロネ	シソ		170	フジバカマ	キク	
29	エゾノギンギン	タデ		100	スイバ	タデ		171	フタリシズカ	セリヨウ	
30	エノキグサ	トウダイグサ		101	スギ	ヒノキ		172	ヘクソカズラ	アカネ	
31	オオカモメヅル	キョウチクトウ		102	スギゴケ	スギゴケ		173	ベニバナポロギク	キク	
32	オオキンケイギク	キク		103	スギナ	トクサ		174	ボタンクサギ	シソ	
33	オオジシバリ	キク		104	ススキ	イネ		175	ボントクタデ	タデ	
34	オオニガナ	キク	写	105	スズメウリ	ウリ	写	176	マルバアサガオ	ヒルガオ	
35	オオニワトコ	レンブクソウ		106	スズメノヒエ	イネ		177	ミズキ	ミズキ	
36	オオバクロモジ	クヌノキ		107	セイタカアワダチソウ	キク		178	ミズナラ	ブナ	
37	オオバコ	オオバコ		108	セイバンモロコシ	イネ		179	ミズヒキ	タデ	
38	オオハナワラビ	ハナヤスリ		109	ゼンマイ	ゼンマイ		180	ミゾシダ	ヒメシダ	
39	オオトラノオ	サクランソウ		110	ソバ	タデ		181	ミゾソバ	タデ	
40	オトコエシ	オミナエシ	写	111	タイリンヤマハッカ	シソ		182	ミソハギ	ミソハギ	写
41	オニグルミ	クルミ		112	タケニグサ	ケシ		183	ミツバアケビ	アケビ	
42	オニドコロ	ヤマノイモ		113	タチツボスミレ	スミレ		184	ミヤマガマズミ	レンブクソウ	
43	オニノゲシ	キク		114	タニソバ	タデ		185	ミヨウガ	ショウガ	
44	オヒシバ	イネ		115	タマノシロヨメナ	キク		186	ムクゲ	アオイ	
45	ガガイモ	キョウチクトウ		116	トラノキ	ウコギ		187	ムラサキシキブ	シソ	
46	カゼクサ	イネ		117	ダンドポロギク	キク		188	ムラサキツルクサ	ツルクサ	
47	カタバミ	カタバミ		118	チガヤ	イネ		189	ムヒシバ	イネ	写
48	カナムグラ	アカネ		119	チカラシバ	イネ		190	モミジイチゴ	バラ	
49	ガマズミ	レンブクソウ		120	チゴユリ	イヌサフラン		191	ヤナギタデ	タデ	写
50	カヤツリグサ	カヤツリグサ		121	チヂコグサ	キク		192	ヤノネグサ	タデ	写
51	カラタチ	ミカン		122	チヂミザサ	イネ		193	ヤハズソウ	マメ	写
52	カンガレイ	カヤツリグサ		123	チドメグサ	ウコギ		194	ヤブカンソウ	ススキノキ	
53	キカラスウリ	ウリ		124	チヨウジタデ	タデ	写	195	ヤブコウジ	サクランソウ	
54	キキョウ(八重)	キキョウ		125	ツユクサ	ツユクサ		196	ヤブヘビイチゴ	バラ	写
55	キクイモ	キク		126	ツルウメモドキ	ニシキギ		197	ヤブマメ	マメ	写
56	キバナアキギリ	シソ		127	ツルマンネングサ	ベンケイソウ		198	ヤマウコギ	ウコギ	
57	キバナイカリソウ	メギ		128	テンニンソウ	シソ	写	199	ヤマグワ	クワ	
58	キランソウ	シソ		129	トウバナ	シソ	写	200	ヤマニガナ	キク	
59	キレハノブドウ	ブドウ		130	ドクダミ	ドクダミ		201	ヤマハギ	マメ	
60	キンエノコロ	イネ		131	ナギナタコウジュ	シソ		202	ヤマブキ	バラ	
61	キンミズヒキ	バラ		132	ナライシダ(ネリバ?)	オシダ	写	203	ユウガギク	キク	写
62	クサギ	シソ		133	ナワシロイチゴ	バラ		204	ヨウシュヤマゴボウ	ヤマゴボウ	
63	クサコアカソ	イラクサ		134	ニガナ	キク		205	ヨシ	イネ	
64	クジャクシダ	ホウライシダ		135	ニラ	ヒガンバナ		206	ヨツバムグラ	アカネ	
65	クジャクソウ	キク		136	ヌカキビ	イネ		207	ヨモギ	キク	
66	クズ	マメ		137	ヌスビトハギ	マメ	写	208	リョウメンシダ	オシダ	
67	クリ	ブナ		138	ヌマトラノオ	サクランソウ		209	リンドウ	リンドウ	
68	クロバナヒキオコシ	シソ	写	139	ヌルデ	ウルシ		210	ワラビ	コバノイカゲマ	
69	クワクサ	クワ	写	140	ネムノキ	マメ		211	ワレモコウ	バラ	
70	ケアブラチャン	クスノキ		141	ノイバラ	バラ					
71	ケイタドリ	タデ		142	ノギリソウ	キク					

虚空蔵山観察会植物調査

日時 2022年10月31日 ... 下見

備考の写は写真あり。

場所 虚空蔵山西口広場駐車場～大杉～奥の院～虚空蔵山西口広場駐車場

合計10名

参加者:横山、富樫、本間、河内、斎藤、鎌田、工藤、安達、小田、中村

NO	和名	科名	備考	NO	和名	科名	備考	NO	和名	科名	備考
1	アオイスマレ	スマレ		44	クリ	ブナ		87	ノブドウ	ブドウ	
2	アオキ(ヒメアオキ)	アオキ		45	クロバナエンジュ	マメ		88	ハイヌツゲ	モチノキ	
3	アオハダ	モチノキ	写	46	クロバナヒキオコシ	シソ		89	ハウチワカエデ	ムクロジ	写
4	アカイタヤ	ムクロジ		47	ケヤキ	ニレ		90	コハウチワカエデ ?	ムクロジ	
5	アカシデ	カバノキ	写	48	コシアブラ	ウコギ		91	ハナタデ(ヤブタ)	タデ	
6	アカマツ	マツ		49	コナラ	ブナ		92	ハナヒリノキ	ツツジ	写
7	アカメガシワ	トウダイグサ		50	コヤムミ	ニシキギ		93	ハリガネワラビ	ヒメシダ	
8	アキノキリンソウ	キク	写	51	チマキザサ	イネ		94	ヒカゲノカズラ	ヒカゲノカズラ	
9	アクシバ	ツツジ		52	サジガンクビソウ	キク		95	ヒトツバカエデ	ムクロジ	
10	アズキナシ	バラ	写	53	サビバナナカマド	バラ		96	ヒメアオキ	ガリア	
11	アメリカセンダングサ	キク		54	サルトリイバラ	サルトリイバラ		97	ヒメキンミズヒキ	バラ	
12	イタヤカエデ(エゾイタヤ?)	ムクロジ		55	シシガシラ	シシガシラ		98	ヒメモチ	モチノキ	写
13	イチヤクソウ	ツツジ		56	ジユウモンジシダ	オシダ		99	ヒヨドリバナ	キク	
14	イヌエンジュ	マメ	写	57	ショウジョウバカマ	シュロソウ		100	フキ	キク	
15	イヌツゲ	モチノキ		58	シラカバ	カバノキ		101	ノダフジ	マメ	
16	イワガラミ	アジサイ	写	59	スギ	ヒノキ		102	ブナ	ブナ	写
17	イワナシ	ツツジ	写	60	ススキ	イネ		103	ホオノキ	モクレン	
18	ウゴツクハネウツギ	スイカズラ	写	61	スマレサイシン	スマレ		104	ホツツジ	ツツジ	写
19	ウスノキ	ツツジ		62	ゼンマイ	ゼンマイ		105	ママコナ(ミヤママコナ?)	ハマウツボ	写
20	ウバメガシ	ブナ		63	タガネソウ	カヤツリグサ		106	マルバアオダモ	モクセイ	
21	ウリハダカエデ	カエデ	写	64	タカノツメ(イモノ)	ウコギ		107	マルバマンサク	マンサク	写
22	ウワミズザクラ	バラ		65	ダケカンバ	カバノキ		108	ミズキ	ミズキ	写
23	エゴノキ	エゴノキ		66	タチツボスミレ	スマレ		109	ミズナラ	ミズナラ	
24	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	カエデ		67	タニウツギ	スイカズラ		110	ミゾシダ	ヒメシダ	
25	エゾユズリハ	ユズリハ		68	タマバシロヨメナ	キク		111	ミツバアケビ	アケビ	
26	オオイタドリ	タデ		69	タムシバ	モクレン	写	112	ミヤマウズラ	ラン	
27	オオイワウチワ	イワウメ	写	70	チゴユリ	イヌサフラン		113	ミヤマガマズミ	レンブクソウ	写
28	オオカメノキ	レンブクソウ		71	チヂミザサ	イネ		114	ムラサキシキブ	シソ	
29	オオバクロモジ	クスノキ		72	ツクハネ	ビャクダン	写	115	モミジイチゴ	バラ	
30	オオバコ	オオバコ		73	ツタウルシ	ウルシ		116	ヤクシソウ	キク	写
31	オオヤマザクラ	バラ	写	74	ツノハシバミ	カバノキ		117	ヤブコウジ	サクラソウ	
32	オニドコロ	ヤマノイモ		75	ツバキ(ヤブツバキ?)	ツバキ		118	ヤマウルシ	ウルシ	
33	オヤマボクチ	キク		76	ツルアリドウシ	アカネ		119	ヤマツツジ	ツツジ	
34	ガマズミ	レンブクソウ		77	ツルリンドウ	リンドウ	写	120	ヤマノイモ	ヤマノイモ	
35	カメノヒキオコシ	シソ		78	テリハタチツボスミレ	スマレ		121	ヤマハギ	マメ	
36	コシノカンアオイ	ウマノスズクサ		79	トラノオシダ	チャセンシダ		122	ヤマブドウ	ブドウ	
37	キタコブシ	モクレン		80	ナガバモミジイチゴ	バラ		123	ヤマモミジ	ムクロジ	
38	キタゴヨウ(キタゴヨウマツ)	マツ		81	ナツハゼ	ツツジ		124	ユキグニミツバツツジ	ツツジ	
39	キッコウハグマ	キク		82	ナナカマド	バラ		125	ユキツバキ	ツバキ	
40	キリノキ	キリ		83	ナライシダ属	オシダ		126	ヨツバヒヨドリ	キク	写
41	キンミズヒキ	バラ		84	ナラガシワ	ブナ	写	127	リョウブ	リョウブ	
42	クサギ	シソ	写	85	ヌルデ	ウルシ		128	リョウメンシダ	オシダ	
43	クズ	マメ		86	ノギラン	キンコウカ		129	ワラビ	コノノササガ	

《2頁から続き》

《荒川みらいファンド助成事業②…出版事業》

高坪山自然総合調査報告書

・A4判　・口絵カラー4P　・本文120P　・300冊印刷　2023年3月31日発行予定

《環境保全支援活動》

アカハネバッタ保全の取組

アカハネバッタは、種の保存法に指定された絶滅危惧種（ⅠA類）で、トキと同じランクです。新潟県では塩谷海岸でのみ生息し、12年ぶりに再発見されました。環境省からの依頼を受け、6月から月2回、午前中のペースで、保全活動に取り組んできました。

活動は、“保全マニュアル”に従い、アカハネバッタは海岸に分布するハイネズ群落（ヒノキ科、絶滅危惧Ⅱ類（VU）の空隙の裸地（砂丘砂地）～草地帯に生息するので、「生息に最適な環境の植生を還元する」というもの。端的に表現すると、ススキやチガヤなどの背が高く被度の高い植物とブタナ、ヒメスイバなどの外来種を駆除し、背の低い在来植物の生育・繁殖を促すという活動です。

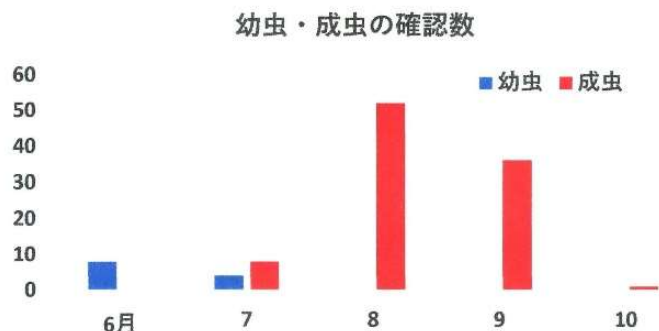
と言っても、これだけでは小会の設立目的からみても意義が薄いので①海岸の植生②同種の生態の2つの調査を並行して行う計画を立てました。①はコドラー調査、植物名と本数、高さ、乾重量、被度など。②は、そもそも幼虫や成虫はどのような生活をしているのか？何を食べているのか？生息数？など。保全活動をする上の基本的な調査を加えることにしました。



しかし、他の保護活動の例からも、人間の都合に合わせて、エサ植物が順調に増えてアカハネバッタが数を増してくれるとは思われません。海岸を観察すると、ハイネズから内陸部に向かって、だんだんと植物が増え（植被率が増し）草丈の高いススキが優先し、クロマツ林へと遷移していることがわかります。このススキを剥ぎ取ったらどんな影響が出るのか？記録を取りながら評価しつつ、慎重に活動する必要があります。着手したばかりなので答えは分かりませんが、20年の経験を積んだセナミスミレを育む会の活動から学んでいきたいと思えます。

小さなことの積み重ね（調査）で分かったことは、5月に孵化し幼虫になり7月下旬から羽化（成虫に）し10月には一生を終える。成虫は体長でオス25～30mm、メス35～48mm。体長で1.4倍、体重で3.7倍とメスが大きい。草丈の低い草木の根元でじっとし、雨や風の日などは隠れて出てこない。分布は2点に限定

では、生息数かというと、標本調査では43.5個体。悪い条件が重なったので2倍の90個体くらいと推定しています。これは、生命をつないでいく上で余りに少数。元の住みよい環境に戻して欲しい！助けて！と訴えているように思います。これらは、報告書にまとめて環境省に提出しますので、会員の皆さんへもお届けしたいと考えています。



(前頁から) アカハネバッタは調査をしている私たちの前に自分からピョウンと現れたり、一旦逃げても、20分もすると元の場所に止まっているという愛嬌のある昆虫です。また、この海岸にはバッタ類やカマキリ類、他の昆虫、アマガエル、トカゲ類など多くの捕食動物も多いことが見えてきました。まだまだ興味尽きない課題がたくさんあります。将来的には、地元住民や希望する市民、学校など幅広い人々の保全活動へと発展していきたいと考えています。

今年度は、少人数の予備調査のため、調査に多くの時間を要し除草活動が短かったというのが反省点。そこで、来年度は、会員の皆さんに都合のよい日に調査や除草、プラゴミ拾いなどへのご参加を、是非、お願いしたいと思います。(富樫繁春 記)

愛好会からのお知らせ

下記のように、役員会と三役会が開催され、総括を含め次年度総会の議案(案)が審議されました。

(1).第2回・役員会が開催されました

- 1.日 時 2022.12.3(土) 13:00~16:00
- 2.場 所 市教育情報センター・2F・会議室B
- 3.内 容 総会に提出する提案事項の審議
 - ①. 2022 度事業と決算について(第1号議案)
 - ②. 2023 度事業と予算(案)について(第2号議案)
 - ③.その他
4. その他

(2). 2023年度総会関係について

1. 開催日時 2023.01.22(日) 13:00~15:00
2. 開催場所 村上市教育情報センター・1F・視聴覚ホール

(3). 講演会について

1. 開催日時 2023.01.22(日) 15:00~16:10
2. 開催場所 村上市教育情報センター・1F・視聴覚ホール
3. 講演内容(演題)



ブナ巨木林(釈迦岳・高坪山)

「越後の山とブナの森を歩く」

— ブナ二次林から、ブナ巨木まで —

ブナの特徴と分布 新潟県のブナ林 ブナと人々の関わり など

4. 講 師 武田 宏 様 (前新潟県森林研究所 森林・林業技術課長)

*なお、第2回役員会の開催に先立ち、同提出議案について、11月17日(木)午前に第4回三役会が開催され、原案を審議しました。これには、関係者も出席しました。
2023年度総会の案内状は12月中にお届けいたします。

いわふね自然愛好会会報 第55号

発行者: 会長 富樫 繁 春

〒958-0213 村上市早稲田 1962-47

Tel. Fax 0254-73-1348

E-mail : sph43t89@flute.ocn.ne.jp

編集: 会報担当 鎌田 剛